

令和4年度

事業計画

社会福祉法人 勝山市社会福祉協議会

## 法人運営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	法人運営事業	法人運営事業	法人運営全般	第1層(全市)
収入(円)	会費	寄附金	その他	前期末繰越金	計
	3,325,000	310,000	3,445,000	3,749,000	10,829,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	その他	計
	6,800,000	2,468,000	538,000	1,023,000	10,829,000
事業概要	予算・決算・補正予算の決議、法人運営				
事業計画	①毎月会長に収支報告書の提出 ②事業収入の安定化 ③事業経営の透明性の確保 ④個別支援の情報共有化のためのソフト導入(新規) ⑤重層的支援体制整備事業の検討、それに係る研修(サマーセミナーの開催) ⑥まちづくり会館(公民館)との協働の模索				
事業目標	経営基盤の強化を図るとともに、福祉サービスの向上を図る。また、住民や、福祉関係者等とともに地域の福祉課題・生活課題の解決に取り組む。地域福祉活動計画策定準備				
見込み成果	①速やかな経営状況の判断 ②支援を必要とする方に適当な福祉サービスの提供 ③地域でいつまでも生活を続けていくことができる地域づくり				
R3振り返り(課題)	引き続きコロナ禍での労務管理など、様々な変更点に追われた。また、安定的な収益体制の構築、人材確保・育成。金融商品の低金利で基金の利息が見込めないため、新しい事業収入の検討が必要。				

## 退職積立金事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	法人運営事業	退職積立金事業	退職積立金事業	第1層(全市)
収入(円)	各階層より				計
	5,156,000				5,156,000
支出(円)	退職給付預け金				計
	5,156,000				5,156,000
事業概要	全国社会福祉協議会が運営する「全国社会福祉団体職員退職手当積立基金」に加入し、退職金として積み立てる。				
事業計画	全国社会福祉団体職員退職手当積立基金 掛け金を納付する 掛け金 5,156,000円				
事業目標	事務処理を円滑に行う。				
見込み成果	安心して働き続けられる環境を提供できる。				
R3振り返り (課題)					

## 社会福祉事業基金運営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
		法人運営事業	法人運営事業	社会福祉事業基金運営事業	社会福祉事業基金運営
収入(円)	寄附金	受取利息			計
	50,000	14,000			64,000
支出(円)	社・基金積立金	法人運営事業へ			計
	50,000	14,000			64,000
事業概要	社会福祉事業寄附金の受け入れ、基金の管理・運用				
事業計画	社会福祉事業寄附金 受け入れ <u>5件 50,000円</u>				
事業目標	安定的な収益体制の構築、金融商品の低金利で基金の利息が見込めないため、寄付者の意思に沿った有効的な利用の検討				
見込み成果	寄付者の意向を活かせる基金の活用				
R3振り返り(課題)	安定的な収益体制の構築、金融商品の低金利で基金の利息が見込めないため、寄付者の意思に沿った有効的な利用の検討				

## ボランティア基金運営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
		法人運営事業	法人運営事業	ボランティア基金運営事業	ボランティア基金運営
収入(円)	寄附金収入	受取利息			計
	5,000	1,000			6,000
支出(円)	ボランティア基金積み立て	法人運営事業へ			計
	5,000	1,000			6,000
事業概要	ボランティア基金寄附金の受け入れ、基金の管理・運用				
事業計画	ボランティア基金受け入れ <u>1件 5,000円</u>				
事業目標	安定的な収益体制の構築、金融商品の低金利で基金の利息が見込めないため、基金の有効的な利用の検討				
見込み成果	寄付者の意向を活かせる基金の活用				
R3振り返り(課題)	安定的な収益体制の構築、金融商品の低金利で基金の利息が見込めないため、基金の有効的な利用の検討				

## 地区社協活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	地区社協活動事業	地区社協事業	第3層(地区社協)
収入(円)	市補助金				計
	4,620,000				4,620,000
支出(円)	人件費	事業費	助成金		計
	154,000	51,000	4,415,000		4,620,000
事業概要	住み慣れた地域でいつまでも暮らすことを目的に、小地域での身近な福祉活動拠点としての役割を持ち、きめ細かな福祉を展開する。				
事業計画	公民館単位を1地区社協として、公民館を拠点に地域福祉活動を推進する。10地区に地区社協が設置されているが、それぞれの地域の特性に応じ、柔軟に事業を展開していく。市社協はその後方支援にあたる。				
事業目標	①月1回のコーディネーター会議の開催(各地区が開催を持ち回りする) ②地区や、地区社協からの相談支援(同行支援もあり) ③地区や地区社協の要請に応じて、各種研修会の開催 ④市社協職員の地区担当制を実施				
見込み成果	後方支援、伴走型支援を続けることで、地域全体の問題解決力の底上げが期待できる。地域での福祉の拠点を強固にし、地域課題を地域で話し合い、解決していくことができる。市社協全体で地域に関わることができ、職種に関わらず地域福祉推進に取り組むことができる。				
R3振り返り(課題)	新型コロナウイルスの影響で、地域活動がストップした地域と、活動し続けた地域の格差がより広がった。地区社協コーディネーターと更に連携を図り、地域への仕掛けを工夫していくことが必要。				

## 給食サービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	給食サービス事業	給食サービス	第3層(地区社協)
収入(円)	共同募金	市受託金	利用者負担金		計
		3,067,000	1,217,000		4,284,000
支出(円)	人件費	事業費	助成金		計
	840,000	816,000	2,628,000		4,284,000
事業概要	65歳以上の①一人暮らし②高齢者のみの世帯③高齢者と障害者のみの世帯で調理が困難で見守りが必要な人に対し、各地区社協ごとに給食サービスを提供する				
事業計画	地区社協を中心に事業を実施する。市社協はコーディネータの相談役やボランティア活動者に必要な研修の実施。市の受託事業に当てはまらない方にも提供できるような仕組みづくり。生活支援体制整備事業の導入に伴う給食サービスの在り方、活動等の研究				
	地区社協名	実施予定日	協力者		
	勝山(A班)	毎月1・3木曜日	いずみの会(ボランティア団体)		
	勝山(B班)	毎月2・4木曜日	いずみの会(ボランティア団体)		
	平泉寺	毎月15日・30日	給食サービスボランティア(個人ボランティア、さわらび会等)		
	猪野瀬	毎月2・4土曜日	猪野瀬地区給食サービスボランティア(ボランティア団体)		
	遅羽	毎月1・3木曜日	縄文の里(NPO法人)		
	村岡	毎月2・4火曜日	さわらび会		
	野向	毎月2・4土曜日	さわらび会		
	北谷	毎月1・3火曜日	フルハウス(業者)		
	荒土	毎月1・3木曜日	さわらび会		
	鹿谷	毎月1・3金曜日	地元業者(魚屋)、個人ボランティア、さわらび会等		
	北郷	毎月1・3水曜日	あぐりの家(障害者就労継続支援B型事業所)		
事業目標	感染症対策を施し、手作り弁当の継続を図る。				
見込み成果	民生委員による定期的な見守りの一環。ボランティアの生きがいづくり。見守りが必要な方の発掘。広域的なサービスの提供				
R3振り返り(課題)	感染症対策のための研修会を実施の上、給食サービスの再開となった。食材費、光熱水費等すべてが値上がりしたため、食数の少ない地区では、540円の食材費では賅いきれないところがある。				

## 地域福祉救援活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	福祉救援活動事業	福祉救援活動事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金				計
	99,000				99,000
支出(円)	事業費	事務費			計
	77,000	22,000			99,000
事業概要	災害に備えた物資の準備並びに研修への参加。また、災害発生時は災害対応のための資金調達や災害ボランティアセンターの立上げ・運営、さらには職員を現地に派遣する。				
事業計画	勝山市災害ボランティアセンター連絡会を活用し、災害対策のための研修や訓練を積み上げる。また、他の地域で災害が発生した際には職員を派遣できるよう、スキルを積む。SNSの活用、いち早い情報伝達方法を常に検討し、災害に備える。災害が起きても事業を継続することができるよう、BCP(事業継続計画)の策定(新規)を行う。勝山市、青年会議所、ライオンズクラブとの協定の締結。				
事業目標	BCP(事業継続計画)策定、災害ボランティアセンター運営ガイドラインの周知、災害ボランティアコーディネータの養成				
見込み成果	運営ガイドラインに沿って繰り返し訓練を行うことで、有事に備えられる。SNS等を活用することで、スムーズな対応が期待できる。また、勝山市、青年会議所、ライオンズクラブと協定を通して災害時の支援活動を迅速かつ効果的に進めることができる				
R3振り返り(課題)	災害ボランティアコーディネータを増やすこと。災害時に社協事業が推進できる体制づくり				

## 住民参加型在宅福祉サービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	住民参加型在宅福祉サービス	住民参加型在宅福祉サービス和美さん	第1層(全市)
収入(円)	事業収入	前期末繰越金			計
	80,000	4,000			84,000
支出(円)	事業費				計
	84,000				84,000
事業概要	住民の相互扶助を推進することを目的に、サービスを有料制で行い、在宅福祉の増進を図る				
事業計画	勝山市民を対象に登録制を取る。制度に区切ることなく公的サービスでは補いきれない部分や、子育て支援の部分等に対応していく				
事業目標	訪問A型への移行の検討。担い手確保のために事業のPRに注力する。				
見込み成果	訪問A型への移行の検討、市民力の活用				
R3振り返り (課題)	担い手の確保、他のサービスとの住み分け。コロナ禍で、入院時の洗濯の要請があるが、病院に出入りする事ができず連絡の取り方が難しい。				

## 地域ふれあいサロン事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	地域ふれあいサロン事業	地域ふれあいサロン事業	第3層(地区社協)
収入(円)	市受託金				計
	4,705,000				4,705,000
支出(円)	人件費	事業費	助成金	返還金	計
	430,000	317,000	3,958,000		4,705,000
事業概要	高齢者の生きがいや社会参加、健康づくり、閉じこもり防止を目的に集まれる場所の提供				
事業計画	地区社協若しくは集落単位、近隣住民で地域特性を活かしながら、サロンを実施する				
事業目標	楽しさ、生きがい、社会参加、見守り・見守られる場の提供				
見込み成果	地域の見守りの場、フレイル予防としての効果が期待できる				
R3振り返り (課題)	<p>コロナ禍において、その時々<sup>1</sup>の社会情勢を鑑み、自分たちで開催可否の判断をしながら、実施できた地域が多くみられた。一方で開催を足踏みし、長期サロンを開催できていない地域もあり、地域の差が大きくなったことは、今後の課題である。また、参加者が「お客さん」にならない意識付けをどれだけ広められるか。負担感なく行えるサロンへの移行。目的の再認識の必要性。集まらなくても(非接触型)できる繋がりづくりの模索が必要となっている。</p>				

## 日常生活自立支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業	第1層(全市)
収入(円)	県社協受託金	利用料	独自事業		計
	7,054,000	1,200,000	13,000		8,267,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	退職積立金	
	7,580,000	396,000	41,000	250,000	
	その他				計
					8,267,000
事業概要	自立して地域で生活が送れるよう、福祉サービス利用援助(手続き等)や日常的な金銭管理などを支援する。当法人が、越前信用金庫の貸金庫利用契約をし、日常的に出し入れしないような利用者の預金通帳等は貸金庫を利用し、預かる。				
事業計画	日常的な金銭管理、相談、支援。関係機関との連携。生活支援員の資質向上研修 サービス利用料 1時間 1,200円 貸金庫利用料 1ヶ月 500円				
事業目標	本人の自己決定を支援し、生活意向を尊重しながら、より豊かに生活が送れるよう支援していく。成年後見制度への移行についても家族や関係機関と相談しながら支援していく。				
見込み成果	社協が支援しているという信用で、業者が利用者との取引を継続し、地域も見守りを続けてくれる。その結果、多少認知症状の進行や暮らしの不自由さがあっても、安心して地域で暮らし続けられる。				
R4振り返り (課題)	本事業が開始されてから22年経過したが、金銭管理が主体で認知されている。しかし、生活を丸ごと抱えていかざるを得ないケースも多く、個々の支援を通じて他機関協働、多職種連携を図り、制度理解や役割分担に努めていきたい。また、独居や家庭関係の希薄により、家族や親族を頼ることができない方が多くなっており、成年後見制度への移行等課題が多い。家族関係が薄い利用者に対しての支援の限界があるが、サービスを越えた地域支え合いの仕組みづくり。また、そのことへの関係機関の理解を促進していくことが重要。				

## 福祉総合相談事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲																																			
	法人運営事業	地域福祉推進事業	福祉総合相談事業	福祉総合相談事業	第1層(全市)																																			
収入(円)	市受託金				計																																			
	1,500,000				1,500,000																																			
支出(円)	人件費	事業費			計																																			
	250,000	1,250,000			1,500,000																																			
事業概要	法律、労働、年金の専門相談を実施。一般相談は職員が随時対応し、専門機関につなげる																																							
事業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>相談名</th> <th>対応者名</th> <th>開催曜日</th> <th>予約の有無</th> <th colspan="2">開催時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年金・労務相談</td> <td>社会保険労務士</td> <td>第1水曜日</td> <td>×</td> <td>午前9時30分</td> <td>～ 午後1時</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">法律相談</td> <td rowspan="2">弁護士</td> <td>第2水曜日</td> <td>○</td> <td>午後1時30分</td> <td>～ 午後4時30分</td> </tr> <tr> <td>第4水曜日</td> <td>○</td> <td>午前9時</td> <td>～ 午後1時</td> </tr> <tr> <td>心配ごと相談</td> <td>社協職員</td> <td>月～金</td> <td>×</td> <td>午前9時</td> <td>～ 午後5時</td> </tr> <tr> <td>夜間相談</td> <td>社協職員</td> <td>毎週水曜日</td> <td>○</td> <td>午後6時</td> <td>～ 午後8時</td> </tr> </tbody> </table>						相談名	対応者名	開催曜日	予約の有無	開催時間		年金・労務相談	社会保険労務士	第1水曜日	×	午前9時30分	～ 午後1時	法律相談	弁護士	第2水曜日	○	午後1時30分	～ 午後4時30分	第4水曜日	○	午前9時	～ 午後1時	心配ごと相談	社協職員	月～金	×	午前9時	～ 午後5時	夜間相談	社協職員	毎週水曜日	○	午後6時	～ 午後8時
	相談名	対応者名	開催曜日	予約の有無	開催時間																																			
	年金・労務相談	社会保険労務士	第1水曜日	×	午前9時30分	～ 午後1時																																		
	法律相談	弁護士	第2水曜日	○	午後1時30分	～ 午後4時30分																																		
			第4水曜日	○	午前9時	～ 午後1時																																		
	心配ごと相談	社協職員	月～金	×	午前9時	～ 午後5時																																		
夜間相談	社協職員	毎週水曜日	○	午後6時	～ 午後8時																																			
事業目標	総合相談窓口として、区切ることなく、あらゆる相談に対応する。受付けた事案を必要な関係機関につなげ、本人の困りごとの解決に結び付ける																																							
見込み成果	①弁護士不在の当市においては、身近で弁護士相談が受けられ、安心につながる ②相談種別を分けずに総合相談として受け、世帯の困りごとを把握、関係機関等へつなげることで、本人が安心して暮らせる ③相談を専門相談や関係機関へ結び付け解決を図る																																							
R3振り返り(課題)	地域で拾った些細な話でも安心や解決に向けて相談にのり、関係機関へつなげるなど職員の相談力を高める																																							

## 家族介護支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	家族介護支援事業	家族介護支援事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	27,000				27,000
支出(円)	人件費	事業費			計
	22,000	5,000			27,000
事業概要	介護の専門家を対象家庭に派遣し、介護の方法の指導や相談を行う				
事業計画	介護の専門家を介護に困っている家庭に派遣し、介護方法の指導や相談を行う				
事業目標	適切な介護指導を行う。更なる事業周知をすることで、この事業を活用してもらう				
見込み成果	①介護ストレスの軽減 ②介護の専門家による相談を行うことで気持ちが楽になり、虐待防止につながる				
R3振り返り (課題)	申込件数が少なく、この事業の周知不足は課題。訪問サービスの利用を開始してから支援事業につなげたケースもあった。また、この事業をヘルパーだけでなく、ケア会議後、他職種と連携しながら、いかに介護軽減ができるかを一緒に考え指導したケースもあった。ただ、依頼を受けても、中止になることがあった。				

## 訪問型サービスA事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	地域福祉推進事業	訪問型サービスA事業	訪問型サービスA事業	第1層(全市)
収入(円)	介護保険事業	利用料			計
	60,000	6,000			66,000
支出(円)	人件費	事業費	その他		計
	50,000	16,000			66,000
事業概要	介護認定の対象とならないが、勝山市が家事の一部援助が必要と認めた方への必要な家事支援				
事業計画	介護認定で自立と認定された方で、勝山市が家事援助を必要と認めた方に家事支援サービスを行う。本人の意欲を引き出し、地域での生活が継続できるよう、定期的に訪問し、支援サービスと共に必要なアドバイスをする				
事業目標	自立した生活が継続できる支援				
見込み成果	自立した生活が継続できる。関係機関と連携を取り地域での生活が継続できる				
R3振り返り (課題)	コロナ禍で、感染予防に努めながら訪問を実施した。対応できる人材の開拓(専門職の訪問介護員が減少する中、事業を維持する工夫)				

## ボランティアセンター運営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	ボランティア活動事業	ボランティアセンター運営事業	ボランティアセンター事業	第1層(全市)
収入(円)	事業収入	受取利息			計
	44,000	1,000			45,000
支出(円)	事業費				計
	45,000				45,000
事業概要	<p>ボランティアセンター運営委員会の運営。企画・広報部会の開催。日々、ボランティア活動団体、個人の依頼・活動相談に対応。様々な機関からの活動に対する相談対応。ボランティア活動保険の窓口となる。</p>				
事業計画	<p>①ボランティアセンター運営委員会 全体会(年2～3回)の開催。詳細な事業については企画部会(年3～5回)、広報部会(年3～5回)で協議しながら進める。②ボランティアセンター運営委員には、勝山高校生の参加があり、高等学校との連携を図る③ボランティアセンターキャラクター「ココドン」を使い、センターの認知度を上げる(ストラップ、ファイル、シール、付箋などの物品販売)。④チャリティ映画会のあり方について検討を重ねる。</p>				
事業目標	<p>勝山市で暮らすあらゆる世代の「つながる力」を育てていくために、ボランティアセンター運営委員会で活発な意見交換を行い、地域を基盤としたボランティア活動等が行えるよう努める。ボランティア活動中の事故に対応するため、ボランティア活動保険の加入を勧める。また、事故が発生した時の迅速な対応に努める。</p>				
見込み成果	<p>ボランティアセンターキャラクター「ココドン」を通して勝山ボランティアセンターの周知を図る。それらが起爆剤となり、ボランティア活動の拡大につながる</p>				
R3振り返り(課題)	<p>全体会や各部会は開催ができた。すこやかフェスタや年の市が中止となり周知活動ができなかった。活動者一人ひとりとの関わりが持てていない。若い層のボランティア意識を高める活動先の発掘。企業とのコラボレーションを模索していきたい。</p>				

## 預託配分事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	ボランティア活動事業	ボランティアセンター運営事業	預託配分事業	第1層(全市)
収入(円)	寄附金				計
	60,000				60,000
支出(円)	助成金				計
	60,000				60,000
事業概要	市民からの寄付金・物品の受入、払い出し。市内で火災が発生した際に見舞金を払い出す				
事業計画	寄付金品の受入、払い出しについては、寄付者の意向に沿う				
事業目標	寄付者の意向に沿った取扱い				
見込み成果	迅速に対応することで、払い出し先のニーズに合った支援ができる				
R3振り返り (課題)	ボランティアセンターに預託された資金の活用				

## つながりの輪づくり推進支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
		法人運営事業	ボランティア活動事業	つながりの輪づくり 推進事業	すこやかフェスタ
収入(円)	県社協受託金				計
	99,000				99,000
支出(円)	事業費				計
	99,000				99,000
事業概要	ボランティアセンター運営委員会を中心につながりづくりを推進する。				
事業計画	ボランティアセンター運営委員会にアドバイザーを設置し、適宜アドバイスを受けながら繋がりづくりを推進していく。				
事業目標	市内の小学4年生と障害を持つ方がモザイクアートに取り組み、お互いの事を知る機会とする。完成した作品は一定期間市内各所に展示し、一般開放した。				
見込み成果	ボランティアセンター運営委員は、活動に携われている事でモチベーション向上が図れる。小学生や障害の方は一つの作品づくりに取り組んだことで、共生のこころを学ぶ事ができた。				
R3振り返り (課題)	コロナ禍でも、つながりを切らさずに活動ができる仕組みづくりが必要。例えば、ボランティアセンター運営委員会で、WEB会議などICTを取り入れていくことができないか等を検討する必要がある。				

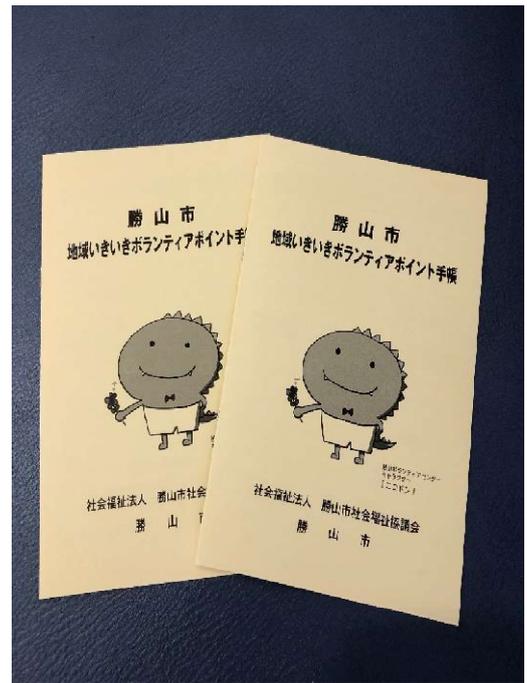
## 地域いきいきボランティアポイント事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
		法人運営事業	ボランティア活動事業	地域いきいき ボランティアポイント事業	地域いきいき ボランティアポイント事業
収入(円)	市受託金				計
	1,612,000				1,612,000
支出(円)	人件費	事業費	助成金		計
	1,250,000	162,000	200,000		1,612,000
事業概要	高齢者の社会参加や生きがいづくりを促進するために、高齢者に関するボランティア活動をポイント制にし、集まったポイントを商品券などに換金する。				
事業計画	40歳以上の市民の方(介護保険料の未納者は対象外)に登録を呼びかける。活動先の紹介をし、ボランティア活動を行ってもらう。広報や研修の場などで事業のPRを行い、登録者を増やす。登録者への研修を実施し、活動の幅を広げる。				
事業目標	研修会開催をきっかけに若年層の新たなボランティアの発掘と活動の場を広げる。ボランティア受け入れ側への説明も随時行う。				
見込み成果	ボランティア活動を社会参加と捉え、自身の健康寿命の延伸に意味があることを理解することで、ポイントの獲得にとどまらず、有意義な活動が行える。				
R3振り返り (課題)	コロナ禍で多くの登録者が活動の場を制限され、ポイント獲得数が減少した。しかし、その中でもできるときに、できる活動を続けていただいた方も多く、活動に対しての後方支援が必要。時代の流れと共に、制度自体の見直しや、運営方法の検討が必要。				



## 障害児・者福祉活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分金事業	障害児・者福祉活動事業	車両・介護機器等貸出事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	負担金			計
	319,000	37,000			356,000
支出(円)	事業費	事務費			計
	349,000	7,000			356,000
事業概要	車椅子対応の福祉車両の貸出、福祉用具、介護機器の貸し出しサービス				
事業計画	在宅・施設入所者問わず、常時車椅子を使用しなければ移動が著しく困難な方に対し、使用料無料にて車両の貸し出しを行う。燃料代は自己負担、運転者は利用者が確保する。市内・市外問わず利用ができ、外出の機会の確保を図る				
事業目標	車両の使い道に制限を設けず貸し出すことで、利用者の社会参加を図る。車両のメンテナンス、管理を行い市民に気持ちよく利用してもらう				
見込み成果	車椅子の方がそのまま乗車できる車を貸し出すことで、本人、介護者の移乗への負担が軽減される。外出にて行動範囲が広がり本人の社会参加やリフレッシュになる				
R3振り返り(課題)	R3年10月に車両の入れ替えが出来た。リフトの操作方法が少し変わったが、利用者は問題なく使用出来ている。更なる周知の必要性あり。休日の貸出の依頼や問い合わせもあり、当社以外でも実施できないか働きかけが必要。				



## 児童・青少年福祉活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分金事業	児童・青少年福祉活動事業	貸出・福祉教育推進事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	負担金	前期末繰越金		計
	618,000	65,000	15,000		698,000
支出(円)	事業費	事務費	助成金		計
	303,000	5,000	390,000		698,000
事業概要	チャイルドシート・ジュニアシート・ベビーカーの貸し出し。学校の福祉学習時に福祉教育指導員・ゲストティーチャーを派遣し、身近なところでの「ふだんのくらしのしあわせ」を体験できる機会を提供する				
事業計画	勝山市民と帰省家族を対象に1か月以内の短期(1ヶ月)の場合、1,000円。長期(1年以内)は5,000円、長期については、1年を超えると更新料金がかかる。耐用年数が経過したものについては、買い替える。汚れを防ぐために汗パッド、ベルトカバーを使用する				
事業目標	清潔で安全な器具を貸出し、子育てを応援する				
見込み成果	貸出しにより、6歳までの使用義務化の啓発と子育て家庭の費用節減。貸出しを通じて多世帯とつながることができる				
R3振り返り(課題)	コロナ禍のため昨年同様、貸出件数が少ない。ベビーカーについては耐用年数超えのため廃棄した。貸出しの必要性を見極めていかなければならないと感じる。周知不足。				



## 福祉育成・援助活動事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分事業	福祉育成 援助活動事業	すこやかフェスタ	第1層(全市)
収入(円)	中央共募	共同募金	前期繰越金		計
		1,033,000	431,000		1,464,000
支出(円)	人件費	事業費			計
		1,464,000			1,464,000
事業概要	<p>ボランティア活動や、地域福祉活動が顕著な方を対象に、勝山市社会福祉協議会長表彰を行う。すこやかフェスタを開催し、福祉や健康について考える機会にする。赤い羽根共同募金の助成を受けて行う事業。</p>				
事業計画	<p>実行委員会を設置し、企画運営を行う。2年続けて中止となったため、今年度は規模を縮小するなどし、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、開催できる企画を考える。赤い羽根共同募金への理解を促進する。</p>				
事業目標	<p>たくさんの機関などに相談し、巻き込みながら、「開催する」ことをまずは目指したい。新型コロナウイルス感染症に関して、正しく知識を収集する場にする。また、withコロナ時代であることを認識し、広く市民が福祉や健康、生活情報を得る機会とする。新型コロナウイルス感染予防を徹底し、幅広い世代の方々が楽しめるよう企画する。赤い羽根共同募金が財源であることを見える化し、募金に関する理解を促進する。</p>				
見込み成果	<p>福祉、健康に関する正しい情報を収集し、勝山市で生き生きと生活を続けていくことができる。2年間中止となったが、イベントとして復活することで、明るい話題となり、地域が活気づくきっかけとなる。赤い羽根共同募金への理解が深まる。</p>				
R3振り返り (課題)	<p>2年間にわたり、事業が中止となったことで、順調に再開できるかが課題。</p>				

## 歳末たすけあい配分金事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分事業	歳末たすけあい配分金事業	歳末たすけあい配分金事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金				計
	1,953,000				1,953,000
支出(円)	事業費	配分金事業			計
	283,000	1,670,000			1,953,000
事業概要	<p>民生委員さんに要援護世帯調査を依頼。準要保護世帯については教育委員会に協力を要請する。対象となる援護を要する世帯から申請を受け、個別配分の可否を委員会で審査し、可世帯に対し個別配分を行う。その他の配分先は、「歳末たすけあい配分委員会」で検討、決定される</p>				
事業計画	<p>配分委員会を開催(年2~3回)し、申請のあった世帯を対象に民生委員さんを通じて個別配分を実施する。個別配分申請においては、広く市社協広報誌でも周知を図る。歳末たすけあい募金の適切な配分方法について十分に検討していただく。また、生活困窮自立支援相談との連携を図る。</p>				
事業目標	<p>暖かい年末年始を過ごせるように支援する。表面化していないケースを拾い上げる。市民の方々からの寄付を大切に届ける</p>				
見込み成果	<p>援護を要する世帯の把握ができ、必要に応じて関係機関につなげることができる</p>				
R3振り返り (課題)	<p>生活保護受給世帯への現物(米)配分について今年度より廃止。個別配分は1世帯10,000円を配分することができた。新型コロナウイルス感染予防として、マスクを渡した。(一人世帯1箱/複数世帯2箱)援護を要する世帯の把握の方法について、新たな歳末たすけあいのカタチの模索</p>				

## ボランティア活動育成事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分事業	ボランティア活動育成事業	ボランティア活動育成事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	参加費			計
	229,000	21,000			250,000
支出(円)	事業費	助成金			計
	200,000	50,000			250,000
事業概要	ボランティア活動者(登録者)等を対象にボランティア活動や地域の貢献について、学びの場を提供する。				
事業計画	市内のボランティア活動者(登録者)、民生委員、いきいきボランティア登録者等を対象に「ボランティア研修会」を開催する。テーマは、活動に直接結びつくことや、生きがい、地域の結びつきなど。また、ボランティア同士の交流を図るため、「ボランティア団体交流会」を開催する。いずれも、ボランティアセンター運営委員会企画部会で意見を出し合い企画する。				
事業目標	ボランティアセンター運営委員会企画部会話し合うことで、住民からの意見を反映させることができる。現在の活動の研鑽の場として、更なるスキルアップを目指す。活動者同士が交流することで、活動への意欲が向上し、お互いを気にし合う関係となれるよう、企画していく。				
見込み成果	新たなボランティア活動者を発掘することができる。ボランティア活動者の養成、ボランティア活動者のスキルアップ、ボランティア活動者同士の情報交換の場ができることで、より活動が活性化する。				
R3振り返り(課題)	ボランティア団体交流会は多くの参加者が集い、「コロナ禍での活動」について、工夫点などを出し合った。また、今後の活動に活かしていただくため、それぞれの活動を資料にまとめ各団体へ送付した。ボランティア研修会は集合型研修が開催できず、意識調査の場としてアンケートを実施した。回答方法も、返信用封筒での返送に加え、インターネットのGoogleフォームを活用するなど、時代に即した方法で展開した。				

## 法外・災害援護配分金事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分事業	法外・災害援護 配分金事業	法外・災害援護 配分金事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	前期末繰越金			計
	30,000	3,000			33,000
支出(円)	助成金				計
	33,000				33,000
事業概要	行路者・火災被災者へ、見舞金等を渡す				
事業計画	火災被災者に見舞金を渡す				
事業目標	火災状況を把握し、迅速に対応し火災被災者に見舞金を渡す				
見込み成果					
R3振り返り (課題)	令和3年度は、火災見舞金を渡す火災がなくよかった。				

## まちなかCafé事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分事業	まちなかCafé 運営事業	まちなかCafé 運営事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	前期繰越金			計
	506,000	559,000			1,065,000
支出(円)	人件費	事業費			計
	384,000	681,000			1,065,000
事業概要	<p>社会的孤立感の解消及び誰もが気軽に立ち寄れる場所として、勝山サンプラザ内に居場所を設置する。運営は「まちなかcafé運営委員会」が協議し、行う。また、社会福祉法人が実施する地域貢献事業としても位置付ける。赤い羽根共同募金の配分を受け、実施する事業。</p>				
事業計画	<p>対象者に制限を設けず、月曜日～土曜日の午前10時～午後5時まで勝山サンプラザ2階に集まれる場所を開き、運営する(ただし火曜日、日曜日は定休)。社協職員やボランティアが常駐し、来客の相談や話し相手になる。コロナ禍で、蜜を避けながら、安全に開店していく。財源が赤い羽根共同募金であることもPRし、募金への協力も呼びかける。</p>				
事業目標	<p>誰もが気軽に立ち寄り、気楽に話や相談ができる場づくり。深刻な問題や相談は、関係機関につないでいく。赤い羽根共同募金への理解を促進する。</p>				
見込み成果	<p>高齢者だけでなく、市民誰もが立ち寄ることのできる場として提供することで様々な生活ニーズをキャッチできる。気軽に相談できる身近な場としての定着。障害や高齢に関わらず、自立サービスの役割を果たすことで、社会性を保ち、介護・フレイル予防となる。</p>				
R3振り返り (課題)	<p>勝山サンプラザさんの協力を得て、まちなかcafé内に手洗い場を設置することができた。運営委員会を開催し、6月14日～リニューアルオープンした。客席数を減らし、飲食を禁じたことで、利用者は減少したが、日々、高齢者、障害者、一般市民を問わず利用がある。新型コロナウイルス感染予防には対策を講じつつ、安定した開店を目指したい。</p>				

## 貸出事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
		法人運営事業	共同募金配分事業	まちなかCafé 運営事業	まちなかCafé 運営事業
収入(円)	共同募金	負担金			計
	283,000	122,000			405,000
支出(円)	事業費	事務費			計
	397,000	8,000			405,000
事業概要	赤い羽根共同募金の配分を受け、車椅子対応の福祉車両、福祉用具、介護機器、チャイルドシート、ジュニアシート、ベビーカーの貸し出しを行う。また、それらの車両や機器等の維持管理、借用者に対しての借用更新手続きなどの連絡調整を行う。				
事業計画	物品名	貸出期間	利用料	更新料	備考
	リフト付きバス(普通車)	時間単位	～10kmまで100円	-	事前申請必要
	リフト付き車(軽自動車)		以降10kmで100円 ずつ加算		
	車椅子(長期)	1年	1,000円	500円	
	車椅子(短期)	1ヶ月	100円	100円	
	介護用ベッド	-	新規貸出中止	2,000円	更新のみ
	歩行器	1年	500円	200円	
	四点杖	1年	500円	200円	
	チャイルドシート(長期)	1年	5,000円	2,000円	
	チャイルドシート(短期)	1ヶ月	1,000円	1,000円	
	ジュニアシート(長期)	1年	5,000円	2,000円	
	ジュニアシート(短期)	1ヶ月	1,000円	1,000円	
	ベビーカー(長期)	1年	5,000円	2,000円	
	ベビーカー(短期)	1ヶ月	1,000円	1,000円	
	事業目標	貸出機器のメンテナンスや清掃管理を適切に行い、気持ちよく利用していただく。赤い羽根共同募金の配分を受けて行う事業であることの周知に努め、赤い羽根共同募金への理解を図る。使用方法についても丁寧な説明に努め、安全に利用していただく。			
見込み成果	貸出機器の使い道には制限を設けず貸出しすることで、本人や介護(育児)者の負担が軽減され、外出の行動範囲が広がる。家庭で購入することなく、育児や介護にあたることができ、家庭での負担軽減を図ることができる。				
R3振り返り (課題)					



## 福祉教育推進事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	共同募金配分事業	まちなかCafé 運営事業	まちなかCafé 運営事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金	県社協補助金			計
	761,000	150,000			911,000
支出(円)	事業費	事務費	助成金		計
	486,000	35,000	390,000		911,000
事業概要	赤い羽根共同募金の配分と県社会福祉協議会の助成金を受け、市内小中学校の福祉教育に助成金を交付する。福祉教育推進に関する「福祉教育担当教諭研修会」の開催、小学校4年生(福祉を学ぶ学年)を対象とした「福祉学習交流会」の開催、全小中学校の訪問、各学校への「ゲストティーチャーの派遣」等に関する調整業務を行う。				
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各小中学校への助成金 上限30,000円(申請方式)</li> <li>●「福祉教育担当教諭研修会」の開催 年1回</li> <li>●小学校4年生を対象とした「福祉学習交流会」の開催。企画はポアランティアセンター運営委員会企画部が行う。</li> <li>●全小中学校を訪問し、担当教諭との福祉教育に関する打ち合わせやイメージの共有、プログラム作りを丁寧に行う。</li> <li>●各学校の要望に応じて、「ゲストティーチャーの派遣」、その他関係機関との調整。</li> <li>●福祉教育の情報共有を図るため、取り組みの振り返りと報告書の作成を行い、活動を可視化する。</li> </ul>				
事業目標	ふくしは「ふ:だんの、く:らしの、し:あわせ」であり、特別なことではなく、住民誰もが対象になりうる事の理解を促進する。イベント式のプログラムではなく、1年を通じてつながるプログラム編成にしていく為に、担当教諭との綿密な打ち合わせを行う。また、「障害」は特別なことではなく、お互いに尊敬しあえる仲間であることに気づき、誰をも排除することなく「共に生きる力」を育てる。プログラムにはできるだけ地域資源を活用する。				
見込み成果	自分も一地域住民であるとの自覚を持ち、「自分にも(自分達にも)何かできないか」を考えることで、自分も、他者も大切に、自己肯定感を高めることができる。また、たくさんの地域資源を知り、「助け合いながら暮らしている」ことを理解することができる。				
R3振り返り (課題)	コロナ禍でも、ICTを活用しながら地域とやり取りができる工夫が必要。“障害”や“高齢”は特別なことではなく、自分事として置き換えて学習ができるようにするために、学校にも更なる福祉教育の意義や必要性を伝え、理解を図ることが重要。				

## 生活福祉資金貸付事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	資金貸付事業	生活福祉資金貸付事業	生活福祉資金貸付事業	第1層(全市)
収入(円)	県社協受託金				計
	659,000				659,000
支出(円)	人件費	事業費			計
	326,000	333,000			659,000
事業概要	低所得者や高齢者、障害者の自立した生活を経済的に支えるとともに、世帯の福祉及び社会参加の促進を図る				
事業計画	相談、受付け、審査会の開催。県社協、民生委員との連携による償還指導等を実施する。また、生活困窮者自立支援センターと連携をとりながら取り組む。コロナ特例貸付(緊急小口貸付、総合支援資金)の延長への対応を行う。				
事業目標	世帯が力をつけ、自立できる支援。職員の相談カスキルアップ				
見込み成果	単なる貸付ではなく、その世帯が力をつけて自立でき、償還につなげる				
R3振り返り(課題)	コロナ禍で「緊急小口資金(特例貸付)」「総合支援資金(コロナ特例)」が追加され、これらの貸し付けが増加した。コロナ禍も2年目に入り、今まで以上に若年層の相談が増えた。聞き取り等丁寧に関心対応した適切な貸し付けのための相談支援が継続してできるよう、職員のスキルアップ				

## 小口資金貸付事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業タイトル	事業展開範囲
	法人運営事業	資金貸付事業	小口福祉資金貸付事業	小口福祉資金貸付事業	第1層(全市)
収入(円)	償還金	法人運営より			計
	400,000	10,000			410,000
支出(円)	事業費	貸付金			計
	10,000	400,000			410,000
事業概要	当座の資金不足により生活が行き詰った方へ小口で一時資金を貸し付ける				
事業計画	一時資金の貸し付け限度額30,000円。保証人不要。資金借入相談により必要に応じて、資金繰りの相談を行う。必要があれば他機関との連携により支援を行う。返済が滞っている人には状況を把握し返済方法などの相談に努める				
事業目標	生活困窮に陥らない支援				
見込み成果	高金利ローンの借入が防げる。また、相談支援を行うことで他の困りごとなどの発見も行え、他機関との連携で、生活困窮に陥らない支援も行うことができる				
R3振り返り (課題)	昨年できなかった、督促送付と相談を行った。様式の変更を行った。課題は、返済が滞っている方への関わり方				

## 生活困窮者自立支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	生活困窮者 自立支援事業	生活困窮者 自立支援事業	生活困窮者自立相談 支援事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	10,600,000				10,600,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	退職積立金	計
	9,870,000	347,000	53,000	330,000	10,600,000
事業概要	生活困窮者支援法に基づき、生活に困っている人からの相談を受け、抱える課題を把握し、本人の気持ちに寄り添いながら自立した生活を支える。また、必要な人には計画を立てて支援を実施する。関係機関や市役所内の各部署の連携が図れるように働きかける				
事業計画	生活保護に至らないようにするために生活困窮者に対する「第2のセーフティネット」として、包括的に支援を実施した。また、生活困窮者の早期把握や見守りのための地域ネットワークの構築、働く場を広げていく。				
事業目標	スモールステップにより成功体験を積み、自立に向かう支援を行う。支援会議の開催にて困窮情報を関係機関などと密にする				
見込み成果	生活に困っている方が今よりも安心して生活を送ることができるようになる。支援会議の開催にて困窮者情報を一元化し、アウトリーチ活動を行える				
R3振り返り (課題)	コロナ禍で減収者の相談が多くなると見込んでいたが、高齢者や障害を持っている方の相談が多かった。就労による収入増や、制度を活用して生活基盤を整えた。支援の出口の不足を感じる。制度の周知徹底(早期発見)				

## 生活困窮者自立支援・就労準備支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	生活困窮者 自立支援事業	就労準備支援事業	就労準備支援事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	1,840,000				1,840,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	退職積立金	計
	1,226,000	215,000	33,000	366,000	1,840,000
事業概要	「社会との関わりに不安がある」、「他の人とコミュニケーションがうまくとれない」など、直ちに就労が困難な方に6カ月から1年の間、プログラムにそって、一般就労に向けた基礎能力を養いながら就労に向けた支援や就労機会の提供を行う				
事業計画	生活保護に至らないようにするために生活困窮者に対する「第2のセーフティネット」として、包括的に支援を実施した。また、生活困窮者の早期把握や見守りのための地域ネットワークの構築、働く場を広げていくことに努める。				
事業目標	1年間を区切りに働くまでの土台作りを行い、就労意欲を整え就労に結びつける				
見込み成果	土台作りを行い就労意欲を高め社会参加・自己実現ができるようになる				
R3振り返り (課題)	2名の方に事業を紹介して利用した。作業を通して利用者の特性理解に務め、社会生活を身につけていただくことで次のステップにつながる事ができた。制度の周知や対象者の発掘等 能力・意欲が低い方へのアプローチ方法				

## 生活困窮者自立支援・家計改善支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	生活困窮者 自立支援事業	家計改善支援事業	家計改善支援事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	3,600,000				3,600,000
支出(円)	人件費	事業費	退職積立金		計
	3,067,000	200,000	333,000		3,600,000
事業概要	自立相談支援機関において、経済的な問題に背景がある相談者に対して家計の視点から相談支援を行う。家計改善・家計再生プランを作成し、自ら家計を管理する意欲、能力を高め、経済的困窮より脱却できるよう支援していく				
事業計画	生活保護に至らないようにするために生活困窮者に対する「第2のセーフティネット」として、包括的に支援を実施する。また、生活困窮者の早期把握や見守りのための地域ネットワークの構築、働く場を広げていく。				
事業目標	家計改善支援を通して、家計を管理する意欲・能力を高め、経済的困窮から脱却する				
見込み成果	収支の見直しを行うことで無駄を省き、生活を保ちながら貯蓄ができるような支援を行う。債務を抱えた方に対しては返済計画を立てることで、借金の解消が図れる。結果、安定した生活を送れるようになる				
R3振り返り (課題)	家計改善が必要な方に家計相談を行うことで滞納などが解消された方もいる一方、提案しても利用につながらずに終了された方もいた。管理能力が低い方、改善意欲のない方へのアプローチ方法				

## 新 子ども見守り宅食支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営	生活困窮者 自立支援事業	生活困窮者 自立支援事業	子ども見守り 宅食支援事業	第1層(全市)
収入(円)	共同募金配分	法人運営より			計
	300,000	50,000			350,000
支出(円)	事業費				計
	350,000				350,000
事業概要	日常生活において困難を抱えている家庭や、コロナ禍によって経済的に困窮・孤立化を余儀なくされている家庭等に対し、ボランティアの協力を得て行う調理体験や、配食サービスを通して見守りつつそれぞれの家庭に楽しみとふれあいを深める機会を提供する。				
事業計画	月1回程度の調理体験または、配食サービスを行う。配食を通じて、状況確認や世帯からの困りごとに対応する。				
事業目標	対象家庭との信頼関係の構築				
見込み成果	つながり続けることで、小さな変化も早期発見できる。コミュニケーションが取りにくい家庭とも繋がりを欠かすことなく見守ることができる				
R3振り返り (課題)					

## 生活支援体制整備事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	法人運営事業	生活支援体制整備事業	生活支援体制整備事業	生活支援体制整備事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	9,616,000				9,616,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	助成金	計
	1,342,000	658,000	56,000	7,560,000	9,616,000
事業概要	助け合う地域づくりに向け関係機関ネットワーク会議の開催、生活支援コーディネータの設置、地域の課題解決の場と新たなサービスを構築をする。併せて、まちなかCaféを核にした支援を考える				
事業計画	地区社協ごとの話し合いを進めながら、研修を実施する。多くの地域の方に参加してもらえる話し合いの場の実施。課題の抽出。行政と相談しながら、仕組みの見直しを行っていききたい				
事業目標	第2層の圏域ごとに地域の課題について話し合う場を持つ(全域にて実施)				
見込み成果	地域の課題を我が事に捉え、前向きな話し合いや解決方法を探る。そのことを通して、行政に頼らなくても進む小地域ごとの福祉のまちづくりを目指す				
R3振り返り(課題)	こんな時だからこそ…という課題を投げかけることができた。呼応し、地域で考える機会が増した。地域ごとに考えが様々で、活動ができた地域とできなかった地域で格差が大きく開いた。地域ですで行われている活動への「意味づけ」、情報共有の方法。住民誰もが主役であるという意識付け(特定の人だけが頑張ることではない)				

# 老人ホームヘルプサービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	介護保険サービス事業	介護保険サービス事業	老人ホームヘルプ事業	老人ホームヘルプ事業	第1層(全市)
収入(円)	介護保険	利用料	補助金	その他助成金	前期繰越
	25,363,000	3,227,000	294,000	10,000	1,790,000
					計
					30,684,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	固定資産	退職積立金
	23,715,000	2,505,000	352,000	1,790,000	890,000
	法人運営事業へ				計
	1,432,000				30,684,000
事業概要	介護保険法に基づくホームヘルプ事業の実施		R4年度 ヘルパー職場内研修 予定表		
事業計画	要介護認定を受けた方に対し、訪問介護サービスを提供する。ヘルパーの質を向上させるため、月1回の認知症や皮膚疾患・食生活などの高齢者特有の症状に合わせた研修を行い、質の良いサービス提供を行う。また、災害時の備えと、その時、ヘルパーとしてどう動くのかといった研修を重ねる		研修会 月(1~2回) 水曜日 14:30~16:00		
				研修内容	参加者
			4月	・R4年度事業所事業説明 ・倫理委員と法令遵守について ・接遇研修	全員
			5月	認知症研修(体験)	全員
			6月	・感染症対策について ・食中毒と衛生管理について ・介護士の献立作り	全員
			7月	・身体介護について(介護実習)	全員
			9月	障害研修(65歳問題)	全員
			10月	救急法(AED)	全員
			11月	・雪害対策について	全員
			1月	・防災について	全員
			2月	・ケース検討会 ・手順書見直し	全員
			3月	・1年のまとめ(ヒヤリハット・苦情処理含む)及び反省	全員
事業目標	災害時の対応について、計画し周知を行う。 また、基本の介護を再度学ぶ。				
見込み成果	災害時にも落ち着いた対応で、利用者の方へ安心のサービスを提供することができる。				
R3振り返り(課題)	年間通して感染予防に努めた。前半は看取りへの対応が目立ったが寄り添うケアができた。コロナ禍で、デイやショートを受け入れ中止等があり、ヘルパーへの訪問依頼が増加した。後半は、大雪で利用者の冬期入所が増えた。雪害時の対応としては、二人体制での対応や訪問時の送迎を実施し、サービスが滞ることのないように努めた。年間通して感染予防に努めた。感染対策をしながら濃厚接触者宅に訪問を行った。また、感染状況に応じシフト変更を行った。特に1月以降は毎日のように感染状況(デイが休み、ヘルパーの家族が濃厚接触者になった)等によって調整を行う。雪が降り駐車場確保に関しては、県がコンビニ、市が公共施設と声を掛けて下さったおかげで駐車スペースの確保がトレスムーズに訪問することが出来た。ヘルパーの確保 緊急時のヘルパー間の連絡方法 市内の事業所全体の質の向上				

## あんしんサービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	介護保険サービス事業	介護保険サービス事業	老人ホームヘルプ事業	あんしんサービス事業	第1層(全市)
収入(円)	事業収入				計
	150,000				150,000
支出(円)	人件費				計
	150,000				150,000
事業概要	施設利用の方が一時帰宅されたとき、または、介護保険対象外の方や、障害サービスで認められてないサービスを希望される方に対して、30分1,000円でサービスを提供する				
事業計画	要介護認定を受けた方や障害サービスにつながるまでの間の方に対し、サービスの提供を実施。ヘルパーの質を向上させるために月1回、認知症や皮膚疾患・食生活などの高齢者特有の症状に合わせた研修を行い、質の良いサービス提供を行う				
事業目標	適正なサービスの提供				
見込み成果	利用される方にとってより豊かな生活が実現する				
R3振り返り (課題)	介護保険では対応外となるサービスを提供し、生きがいを持って生活できる環境づくりをしたり、より良い生活環境に整えたりすることができた。課題は、ヘルパーの確保キャンセル対応について				

## 介護予防支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	介護保険サービス事業	介護保険サービス事業	介護予防支援	予防ケアマネジメント	第1層(全市)
収入(円)	介護保険				計
	1,596,000				1,596,000
支出(円)	法人運事業へ	介護給付事業へ			計
	1,586,000	10,000			1,596,000
事業概要	介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業に基づく予防ケアマネジメントの実施				
事業計画	65歳以上で介護や支援が必要であると認定を受けた人、40歳～64歳で特定疾患(16種類)が原因で認定を受けた人を対象に地域で安心して暮らせることを目指し、マネジメントを実施する				
事業目標	本人・家族の思いに寄り添い、自立し・状態悪化を予防し、安全に生活が送れるように支援する				
見込み成果	状態悪化を予防しながら、その人らしい暮らしを支援することができる				
R3振り返り(課題)	コロナ禍で、利用者の状態が悪化するケースが見られた。他事業所も状況・体制が常に変化し対応に追われた。				

## 介護給付事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	介護保険サービス 事業	介護保険サービス 事業	介護給付	介護給付	第1層(全市)
収入(円)	介護保険	階層区分繰入	施設整備等	その他の活動	計
	24,309,000	10,000			24,319,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	固定資産	退職積立金
	20,679,000	1,904,000	248,000		1,438,000
	拠点区分繰出し				計
	50,000				24,319,000
事業概要	介護保険法に基づき、利用者が、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、利用者の選択に基づき、適切な居宅介護支援サービスを提供する				
事業計画	65歳以上で介護や支援が必要であると認定を受けた人、40歳～64歳で特定疾患(16種類)が原因で認定を受けた人を対象に地域で安心して暮らせることを目指し、マネジメントを実施する				
事業目標	本人・家族の思いに寄り添い、安心した生活が送れるように支援する。研修等にも積極的に参加し、様々な問題に対応できるよう、スキルアップを目指す				
見込み成果	その人らしい暮らしを支援することができる。多問題があっても、他機関と協同することで世帯を支えることができる				
R3振り返り (課題)	コロナ禍で、利用者の状態が悪化するケースが見られた。他事業所も状況・体制が常に変化し対応に迫られた。施設・病院等の面会制限で、本人・家族も不安な状況下であり、そこに寄り添った。 令和3年4月介護報酬改定に伴い、事務職員配置・ICT導入などで居宅介護支援費Ⅱを導入。令和3年10月より新規職員採用。令和4年1月より特定事業加算Ⅲを算定するなどの、企業努力に務めた				

## 要介護認定調査事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	介護保険サービス 事業	介護保険サービス 事業	要介護認定調査事業	要介護認定調査	第1層(全市)
収入(円)	介護保険				計
	198,000				198,000
支出(円)	法人運営へ				計
	198,000				198,000
事業概要	介護保険法に基づき、要介護認定調査対象者を調査し、市へ調査票を提出する				
事業計画	介護保険法に基づき、要介護認定調査対象者の調査を市から委託を受けて行う				
事業目標	本人の正確な状況を見極められるよう、認定調査員の質の向上を図っていく				
見込み成果	介護認定期間の長期化や、本人の状態悪化による区分変更にて、大幅な依頼件数の増加は見込めないと思われる				
R3振り返り (課題)	年々、大幅ではないが減少傾向にあると思われる。 判定会・調査会前に、市からの調査に関するチェックがあるが、以前よりも調査内容に関しての問い合わせが少なくなっている				

# 身体障害者ホームヘルプサービス事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲																						
		障害福祉サービス事業	障害福祉サービス事業	身体障害者ホームヘルプサービス事業	身体障害者ホームヘルプサービス事業	第1層(全市)																					
収入(円)	国補助金	自立支援給付費	利用料	受託事業	施設整備																						
	171,000	10,350,000	228,000	48,000																							
					計																						
					10,797,000																						
支出(円)	人件費	事業費	事務費	退職積立金	法人運営へ																						
	9,372,000	907,000	61,000	310,000	147,000																						
					計																						
					10,797,000																						
事業概要	<p>障害者総合支援法に基づく、訪問介護事業(居宅介護サービス、強度行動援護、同行援護、移動支援)。計画以外のサービスを希望される方を対象に「あんしんサービス(30分1,000円)」の実施</p>																										
事業計画	<p>R4年度 サービス提供責任者職場内研修計画表(障害)</p> <p>研修会 毎月 第1木曜日 11:00~12:00</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修内容</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月 ・業務確認 ・緊急時対応と連絡体制について</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> <tr> <td>5月 ・困難ケース対応について ・介護費について</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> <tr> <td>6月 ・実技指導について</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> <tr> <td>7月 ・障害サービスについて</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> <tr> <td>9月 ・他職種連携について</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> <tr> <td>10月 ・災害対策について</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> <tr> <td>11月 ・困難ケース対応について</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> <tr> <td>1月 ・手順書見直しについて</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> <tr> <td>2月 ・次年度研修について</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> <tr> <td>3月 ・1年のまとめ ・次年度の体制について</td> <td>管職者・山内・菊川・榎原</td> </tr> </tbody> </table>					研修内容	参加者	4月 ・業務確認 ・緊急時対応と連絡体制について	管職者・山内・菊川・榎原	5月 ・困難ケース対応について ・介護費について	管職者・山内・菊川・榎原	6月 ・実技指導について	管職者・山内・菊川・榎原	7月 ・障害サービスについて	管職者・山内・菊川・榎原	9月 ・他職種連携について	管職者・山内・菊川・榎原	10月 ・災害対策について	管職者・山内・菊川・榎原	11月 ・困難ケース対応について	管職者・山内・菊川・榎原	1月 ・手順書見直しについて	管職者・山内・菊川・榎原	2月 ・次年度研修について	管職者・山内・菊川・榎原	3月 ・1年のまとめ ・次年度の体制について	管職者・山内・菊川・榎原
	研修内容	参加者																									
4月 ・業務確認 ・緊急時対応と連絡体制について	管職者・山内・菊川・榎原																										
5月 ・困難ケース対応について ・介護費について	管職者・山内・菊川・榎原																										
6月 ・実技指導について	管職者・山内・菊川・榎原																										
7月 ・障害サービスについて	管職者・山内・菊川・榎原																										
9月 ・他職種連携について	管職者・山内・菊川・榎原																										
10月 ・災害対策について	管職者・山内・菊川・榎原																										
11月 ・困難ケース対応について	管職者・山内・菊川・榎原																										
1月 ・手順書見直しについて	管職者・山内・菊川・榎原																										
2月 ・次年度研修について	管職者・山内・菊川・榎原																										
3月 ・1年のまとめ ・次年度の体制について	管職者・山内・菊川・榎原																										
事業目標	<p>住み慣れた地域での生活を継続できるための寄り添い支援</p>																										
見込み成果	<p>ヘルパー利用者の増加と利用時間の増加。利用者の自立への意欲を引き出し、喜びを感じてもらえる。ICTを導入したことにより、調整ミスの減少・記録時間の短縮</p>																										
R3振り返り(課題)	<p>感染予防に努めながら訪問した。親が要介護となり、障害者自身が介護者となる家族構成の中、障害者本人への支援の必要性からサービス提供となったケースが増加した。危機管理の観点からも、きめ細やかな配慮を必要とする</p> <p>感染予防に努めながら訪問した。体調が悪化し入所になったケース、自立し独り立ちしたケースもあった。サービスを継続していく中で、一つ一つ出来るようになり、生活できるようにステップを踏んで出来る事が多くなってきているケースもある。ヘルパーの確保 必要な研修への受講と資格取得</p>																										

## 障害者計画・相談事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	障害者福祉サービス事業	障害者福祉サービス事業	障害者計画相談支援	計画相談支援事業	第1層(全市)
収入(円)	自立支援給付	障害児給付	受託事業	前期末繰越金	
	2,916,000	787,000	95,000	2,568,000	
					計
					6,366,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費		
	5,818,000	521,000	27,000		
					計
					6,366,000
事業概要	障害児・者の自立した生活を支え、課題解決やサービス利用のケアマネジメントを行う				
事業計画	障害者(児)からの相談、インテーク、アセスメントから計画を立て、調整会議を実施し、初回計画から3か月と半年に1度のモニタリングにて計画の見直しなど適切な支援を行う				
事業目標	障害を持つ方が安心して生活を送ることができるように本人の希望に沿いながら他機関やサービス提供者と連携を取る				
見込み成果	障害を持つ方が安心して生活を送ることができるようになる				
R3振り返り (課題)	コロナ禍で、会わない配慮をし電話対応もした。相談員の不足から、依頼があっても受託できないことが増えた。課題は相談員の不足				

## 障害者相談支援事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	障害者福祉サービス事業	障害者福祉サービス事業	障害者相談支援事業	障害者生活支援センター事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金				計
	4,720,000				4,720,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費	退職積立金	計
	4,337,000	93,000	14,000	276,000	4,720,000
事業概要	障害を持つ方が地域で暮らし続けることを目的に適切な相談と支援を行う。また、奥越障害者自立支援協議会の運営に参画し、新たな資源の開発等を行う				
事業計画	障害者(児)、障害があるかもしれない方を対象に相談、支援し関係機関との連携を図る。また、相談から探る地域課題を浮き彫りにする				
事業目標	身近に相談できる環境を作り、必要に応じて訪問する				
見込み成果	障害者(児)、または保護者の方から気軽に相談できる場の提供				
R3振り返り(課題)	行政や、他の相談員との情報共有を図るため、毎月連絡会を開催できた。3年度の啓発活動はコロナの感染状況によりできなかった。4年度は早めに啓発運動に取り掛かりたい。センターの周知を積極的に行っていきたい。引き続き、潜在ケース、停滞ケースへの積極的なアプローチが課題(センターの周知やケースを途切らせない対応が必要)				



## 障害者社会参加促進事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業名	事業展開範囲
	障害者福祉サービス事業	障害者福祉サービス事業	障害者社会参加促進事業	障害者社会参加促進事業	第1層(全市)
収入(円)	市受託金	参加費			計
	300,000	15,000			315,000
支出(円)	事業費				計
	315,000				315,000
事業概要	地域の中で障害を持つ方が生活しやすいように社会参加を促進する事業の展開と、家族や関係機関・地域での障害理解が進み、権利擁護できるように事業を通じて働きかける				
事業計画	障害を持つ方や支援者等に対し、障害者自身のスキルアップと社会参加への促進を図る。家族へは障害理解や対応方法を学ぶ機会の提供、地域へは障害理解の啓発、障害者の後見等権利擁護に関する研修の実施。毎週月・水(13:00~17:00)たまり場(誰でも集える場)の開催				
事業目標	誰もが安心して暮らせる地域づくり				
見込み成果	障害があっても住み続けられる地域づくりや社会参加の促進。気軽に外出できる場所の確保				
R3振り返り(課題)	コロナの感染状況が不安定な中、「たまり場」の利用者については、やはり2年続けて(固定の利用者はいるものの)減少傾向にある。参加者の減少による事業の見極め、事業の変換の検討が必要				



## 勝山市社協成年後見センター「ささえ愛」事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業タイトル	事業展開範囲
		公益事業	成年後見事業	勝山市社協 法人後見事業	サポートセンター 「ささえ愛」
収入(円)	共同募金	事業収入			計
	105,000	2,003,000			2,108,000
支出(円)	人件費	事業費	事務費		計
	1,810,000	267,000	31,000		2,108,000
事業概要	何かしら障害があっても、自分の地域で、いつまでも自分らしく安心して暮らしていくための相談・支援				
事業計画	ささえ愛運営委員会の運営。日常生活自立支援事業利用者等を対象に相談や申し立て支援。法人後見人として受任を行う。また、成年後見制度の普及啓発(障害者生活支援センターと合同)のため、市民向け講座や広報等により事業の周知を図る				
事業目標	住み慣れた地域で、安心して暮らし続けるための支援を行う				
見込み成果	今後ますます本制度の利用が見込まれる。法人後見人としてささえ愛運営委員会で承認されれば、後見候補者として家庭裁判所に申し立てを行い、受任をしていく。後見報酬(収入)が見込めるケースもある。法人後見を受任することで被後見人がこれまでの生活を大きく変化させることなく暮らし続けることができる				
R3振り返り (課題)	被後見人の死亡で終了するケースもあったが、新規受任するケースもあり、総受任数は変わらなかった。市長申し立てによる受任もあり、各関係機関との連携を図ることができた。課題は後見支援員の確保				



## 社協喫茶経営事業

予算区分	拠点区分名	サービス区分名	階層名	事業タイトル	事業展開範囲
	公益事業	喫茶会計	喫茶会計	喫茶経営	第1層(全市)
収入(円)	売上金	受取利息	前期末繰越金		計
	1,770,000	1,000	426,000		2,197,000
支出(円)	人件費	仕入れ	事業費	事務費	計
	1,095,000	885,000	202,000	15,000	2,197,000
事業概要	福祉健康センター「すこやか」利用者の憩いの場として、創意工夫を重ね飲食の提供を行い、経営の安定を図る				
事業計画	「すこやか」の一般市民への開放が未定のため、利用はほぼ市・社協職員。経営安定を図るために、料金改定を検討したい。				
事業目標	集客のための周知、メニューの考案、テイクアウト商品等の検討				
見込み成果	周知をすることで、利用者、売り上げ増				
R3振り返り(課題)	会館の貸館が中止され来館者がなかった。「すこやか」で勤務する職員の利用のがあり、売上は維持できた。				

